

Rikkyo Club of Executives & Professionals

立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：戸井田和彦 編集人：徳澄範光 事務局：TEL.03-3985-3135 <http://www.r-keizaijin.net/>

新春名刺交換会



2018年2月1日(木)、毎年恒例となる「新春名刺交換会」が日比谷松本楼にて開催されました。

18時からの第1部講演会では、元日産自動車株式会社専務執行役員チーフクリエイティブオフィサーであった、株式会社SHIRO NAKAMURA DESIGN ASSOCIATES 代表取締役 中村史郎様に「デザインと経営」と題して約1時間にわたりご講演をしていただきました。

続く19時より第2部の新春名刺交換会がスタートいたしました。会員90名に加えて、来賓25名、ゲスト12名に加えて、インターンシップに参加した経済学部

立教経済人クラブ会長より、チーム立教の精神で引き続き日々まい進していきたい。と開会のご挨拶を頂きました。

続いて、ご来賓を代表して、立教大学総長 吉岡知哉様よりご挨拶を頂きました。2018年3月に総長を退職することになり、勤めた2期8年の任期を振り返られ、2002年法学部長時代に白石先生に誘われて以来経済人クラブに参加しており、自身としては非常にシンボリックなことであったと思っている。立教大学の今年の受験者数は71,000人と昨年に比べて9千人増加し立教を目指す人が増えています。昨年は、野球部の優勝があり、立教全体がまとまることができた。そのほかにも、ボート部、スケート部などが活躍し

ており平昌五輪、リオ五輪にも参加者を輩出している。また、2018年は池袋キャンパスが移設100周年などこれからもさまざまな行事が続いていきます。とご挨拶をいただいた後、戸井田会長より、吉岡総長へ感謝の意をこめて記念品と花束を贈呈いたしました。

次に、千葉喜章対外交渉委員長より当クラブ対外交渉の一環として、同志社大学校友会との関係を今後強固にしていくことが報告された後、本日ご参加いただいた同志社大学校友会東京支部の方々をご紹介いただきました。

引き続き、湯浅総務委員長よりご来賓のご紹介、新入会員の紹介と記念撮影を行い、乾杯へと移りました。乾杯のご発声は、和田成史立教大学校友会会長が、校友会員が20万人を超え、青山学院、上智大を上回る中規模クラスになった。平成の卒業生が昭和の卒業生を上回り、女性が半分以上になったことなどをお話され、高らかに乾杯を行い、歓談となりました。

歓談中には、立教経済人クラブが産学連携で行っている経済学部とのインターンシップに参加した学生7名からも一言ご挨拶をいただくなど盛りだくさんの内容でした。ローストビーフ、カレーライスなど松本楼の名物料理をはじめ、おいしい食事とお酒を頂きながら、様々な業種、年齢の垣根を越えて情報交換が活発に行われておりました。最後に中締めを行い閉会となりました。 一品川 高穂 H8済一

Christmas Party 2017

2017年12月5日、ホテルオークラ東京にて、今年も「2017クリスマスパーティー」がとり行われました。都内一等地の素晴らしいホテルできれいな夜景を見ながらの開催、立教経済人クラブに相応しい洗練されたスタイルの空間でした。

開会にあたり戸井田会長のご挨拶、聖書朗読と立教大学宮崎チャプレンによる祝福と感謝の祈りをおさげしたのち、盛大に洋食立食によるパーティを開催いたしました。

今回は過去最大級、会員36名、ゲスト40名、子供6名、総勢82名の参加ということもあり、シンガーズンライター新妻由佳子さんによるジャズの演奏を聴きながら大いに懇談の後、毎年恒例の全



員争奪ビンゴ大会(商品持ち寄り)を開催、それぞれにお目当てのものをお持ち帰りいただきました。会も最高潮を迎えたところで定刻を少々回り、名残惜しみながら散会となりました。

来年も既に今から様々なイベント仕込みをしておりますので、是非皆様ふるってご参加いただければ幸いです。 一林 雄太 H7営一



新春名刺交換会

「経営とブランドとデザイン」

講師：中村史郎



2018年2月1日(木)、毎年恒例となる新春名刺交換会が日比谷松本楼にて開催されました。

18時からの第1部講演会では、株式会社SHIRO NAKAMURA DESIGN ASSOCIATES 代表取締役社長 中村史郎様に「経営とブランドとデザイン」と題して約1時間にわたりご講演をして頂きました。いすゞ自動車にて25年過ごされた後、カルロス・ゴーン氏の要望で日産自動車へ入社し17年の歳月を過ごされ、その中でご自身が感じられた企業の経営とブランドとデザインについて、ユーモアを交えながらお話を頂きました。参加者には、馴染み深い自動車がたくさん話の中に事例として登場し、いつも以上に熱を帯びたあっという間の1時間でした。

・いすゞへの入社

1974年に入社しました。いすゞは、マネージメントがまるでダメでした。一方で、非常にグローバルな企業でした。例えば、「アスカ」はGMシボレー・ドイツオペル・いすゞが共同で作った車になります。「ジェミニ」においては、イタリアのジウジアーロ原案を、私たち世代が若い時に量産しました。その新入社員の時から、ドイツオペル・GM・ジウジアーロとのグローバルな経験が、結果的にその後の日産に来てからの17年に影響を与えています。

・いすゞのデザインに対する想い

いすゞは、アーツセンターに1年に1回多くの留学生を送っていました。いすゞは日産の規模の1/10ぐらいだったので、アーツセンターに行ける確率がものすごく高いのです。トヨタ・日産・いすゞが毎年留学生を送っていました。それだけ企業規模でみるとデザインに投資している割合が高い企業です。

・いすゞへの入社動機

60年代のGMは、世界最高のデザイン。ジウジアーロにも強い憧れがあった。そのGMとジウジアーロといすゞは仕事をしていました。そのうへ、アーツセンターへの留学もあります。いすゞに行けば、全部できるだろうと思いいすゞに入社しました。そして思い通りに、すべてを経験することが出来たことが、私の大きな財産となりました。会社にお金をもらって、たくさんの勉強をさせてもらうことができました。今ではこんなことはありえません。

・グローバル視点の大切さ

ヨーロッパにデザイン事務所を設立しました。固定資産

税が莫大にかかるため、もうすでにないですが。ここでは、GMと提携していたイギリスのロータスのすごく優秀な若いデザイナーと仕事をしました。ダイバーシティから素晴らしいものが生まれることを、身を持って経験し、私の自信となりました。欧米だけではなく、東南アジアにも数多く通い、いろんな国の文化の違いを、徹底的に経験しました。

・乗用車の提案

「ピークロス」、「ジェミニ」をベースに新しいカテゴリを作るため提案しましたが、残念ながら乗用車の生産・撤退が決まっていたため、プラットフォームがなくなってしまいました。そのため、「ビッグホーン」という3.2リットルのSUVに同じデザインを乗せてみました。結果、本来のコンセプトと違う乗用車になりました。しかしながら個人でいうと、「ピークロス」の評価が高く、今でも私の名刺代わりとなっています。

・日産との出会い

99年にニュー・ヨークのヘッドハンティング会社から連絡があり、ニュー・ヨークにてゴーン氏と面談をしました。当時の日産はボロボロの状態でした。周りからは、パラシュート・落下傘部隊ではないかといわれました。

それでも日産に行った理由は、日産という会社だからではなく、そこにあるチャンスだからです。

日本の車のデザインの閉鎖性とか、欧米に比べであまりにも停滞していることにフラストレーションを感じていました。デザインの価値をもっと認めるべきという想いを、いすゞのみならず多くの日本の自動車に対して感じていました。「デザインの地位向上。」「デザインが大切なのに誰も重視しない。」それを変えるということに、使命感を感じていた時に、日産から話がきました。

一方BMWやフォード等外資系のデザイン部門のヘッドの流動化は激しいです。日本は、1回会社に入ると変わりません。結果せつかくのタレントがうまく回っていきません。欧米の日常が、日本では非日常。これを変えたい。ゴーン氏との面談時、あまり言葉を交わさなかったがゴーン氏からひしひしと感じました。100年に1回のチャンスと思い、話に乗りました。日産が好きで入ったというよりも、日本の車のデザインを変えたいという気持ちが強く、それが出来ることを目的に入社し、新しいリバイバルプランを活用させてもらったのです。

日産を使って、私がやりたいことをやらせてもらいました。一方会社から見ると、私を使って経営に貢献しました。私は会社を利用し、会社は私を利用した。一番望ましい関係だと思います。

しかし、25年在籍し部長にもさせてもらったいすゞを離れるのはつらかったです。けれども、当時の上司にも快く送り出してもらいました。

・日産での想い入れのある車①「フェアレディZ」

日産リバイバルプランの象徴として、「Z」のリバイバルです。

これが失敗したら、私はクビになると思っていました。これの評判がその後の自分を決めるとしていました。デトロイトショーで発表をしました。私がプレゼン行いました。現地で日本人の車のデザイナーがプレゼンをしたのは初めてです。自分にとっても、会社にとっても意味のある車です。

復活のシンボルであると同時に、新しい「Z」だけど絶対に「Z」に見える日産が多く持っているheritage(遺産)。1つの車のブランドでこれほど歴史のある車はありません。スカイラインが1x世代です。日産はものすごくブランド価値があります。しかし日産は、それを生かすのが下手でした。ブランドを大切にしない。車をデザインすることと同時に、どれだけそのブランドの遺産を引き継いでいくか。

Design DNA、人のDNAは自然に受け継がれていきますが、会社のDNAは自然にいきません。社長やチーフデザイナーが変わるとガラッと変わります。900人ぐらいいる欧米日のデザイナーが、日産のDNAをどうやって理解できるか。DNAを理解していないと、デザインが好き勝手な方向に行ってしまう。デザイナーは基本的にわがままです。「自分のやりたいことをやってほしい。」それを変えさせないといけませんでした。そのためには、日産のDNAはなんなのかをきちんと伝えなければなりませんでした。

・日産での想い入れのある車②「キューブ」

この車ぐらいロングライフの車もありません。いい加減モデルチェンジしてもらいたい。非常にユニークな車。いちクリエイターとして、日本の独自のオリジナルのデザインを作りたいという思いから作った車です。世界に1台の左右非対称の車。Inside out。「cube my room」車じゃなくて部屋です。世界で一番遅く見える車。走っていても止まって見える。日本建築のように内側が外観になる。そんな日本のフィロソフィーから、生まれた車です。当初社内でも反対が多く(戸井田さんも反対でしたね)ゴーン氏の強いサポートがあったから生まれました。生産ラインから見ると、後ろが違うだけでなくボディサイドも左右別です。

・日産での想い入れのある車③「GTR」

世界で一番早い量産スポーツカー。車のデザインは言葉をしゃべります。言葉通りに作らないと何かおかしいものが出来上がります。「GTR」は日本語で作らなかった。それまでの車のデザインのセオリーを変えました。「美しくなくていいから、存在感がある。」「ポルシェでもフェラーリでもジャガーでもない」それだけがテーマでした。どんなにきれいでも、ポルシェみたい、もしくはフェラーリみたいと言われたらダメ。美しいというのはある方向からの見方で、別の見方をすれば魅力があります。それを見つけ出したのが、「GTR」です。「日本的なデザインで、美しくないけどものすごく説得力がある。」ガンダムからインスピレーションを受けた。ポルシェやフェラーリのような車のデザインのスポーツカーのインスピレーションは、女性の体です。「キューブ」もしかり、何にも似ていないと比較するものがない＝ロングライフです。

・日産での想い入れのある車④「キャシュカイ」「ジューク」

2000年ごろの日産は、ヨーロッパではセールスがダメで何を出しても売れませんでした。そんな中2007年に「クロスオーバー」を発売。今でも欧米中で年間50万台の実績があります。10年たってもベストセラー。ロンドンに作ったスタジオでデザインした車です。デザインに固執すると利益が出るという実績が出来ました。地価が世界一高いところのため費用は掛かったが、それ以上のリターンが返ってきました。結果誰も文句を言えない。いい場所でデザインをやると優秀なデザイナーが集まります。このようなサイクルを回すことが、デザインのマネジメントでとても大事です。

・MAYA(Most Advanced Yet Acceptable)

「唇から機関車まで」というキャッチフレーズで知られているレイモンド・ローウィ氏の提唱した原則です。

この中にある「acceptable」というのは、お客さんが受け入れてくれるレベルを見極めることです。車のデザイナーの仕事は、スケッチを選び、クレイモデルを選びなどありますが、何を基準に選ぶのが大切です。

・一貫性と継続性 consistency +continuity

日産「セレナ」は世代を超えて共通の価値が残るようになっていきます。ブランドエクスペリエンス、お客様が感じるもの、見るものは一貫していないといけません。銀座にあるショールームは、日本人のために作っているではありません。来場者を見てみると、半分が中国人、1/4がそれ以外の外国人、1/4日本人です。つまり日本のために作っていません。日産ブランドを日本に東京に来た外国人に感じてもらう場所です。

・日産での18年

経営に対しどうやってデザインは貢献するか、経営からは何を期待されているか、をずっとやってきました。デザインは商品の価値も作り、ブランドの価値も作って、最終的に経営に貢献する、こういったサイクルを回していくと、経営とデザインとブランドのいい関係が出来ます。これは、実績を回していくしかありません。それが私の18年間やってきたことです。デザインは美しく魅力的でなければいけないけれども、ブランドに貢献します、会社に経営貢献する、これがデザインのあるべき姿です。

・これからの世界的な自動車の流れ

現在、Volkswagenが世界一、日産ルノー連合が2位、3位がTOYOTA、4位は何だと思われます?ヒュンダイ・キアです。ルノーと三菱を外した日産単体で見ると、ヒュンダイ・キアに負けているのです。それぐらいすごいグループです。イタリアのジェネシス、そしてキアのステイナガー、これらは日産のインフィニティ、トヨタのレクサスにあたるのですが、とてもじゃないですが、会場皆さんが思っている韓国車のレベルではありません。しかし韓国車は日本に入ってきていません。日本人は韓国車が好きではない。これはすごく大きな問題です。中国では広州汽車があります。広州汽車は今年デトロイトのモーターショーに来て、アメリカでの販売を始めました。ヒュンダイ、広州汽車ともに、韓国人・中国人がデザインをしています。BMWや他の自動車メーカーからデザイナーを引き抜いてきています。このように韓国・中国の車はよくなってきているのですが、現在日本市場はものすごく閉鎖的ですので、家電市場のようにひっくり返されないようにしなくてはなりません。また、吉利(ジーリー)はVolvoやロータスを傘下に収めています。インド市場では、タタです。タタ・テクノロジー、ITで有名ですね。以前価格の安い車を出して失敗しているので、安い車は絶対に通用しないと学んでいます。これらのようなところを注意してみないと、我々は新興ブランドに追い抜かれていきます。

・日本市場の販売台数ベスト20位から見えてくること

日本専用車種(日本でしか売れていない車)、軽とミニバンです。日本専用車種というのは、海外で売れない車。そのためだけに投資している。一方韓国、すべて輸出車です。レギュレーション・5ナンバーなどすべてグローバルスタンダードに合わせています。韓国にも軽はありますが、軽の基準を海外で通じるように変えました。韓国市場は日本の市場の半分ぐらいのため、韓国市場だけで投資してもやっていけないので、どうやってグローバルに通用するようにしていくかを、国をあげて進めています。国道省の話ですが、日本人はどうかというと、プロポーションに世界で一番鈍感な民族です。よく言われるのが女性タレントです。日本ではAKBなど、韓国では少女時代に代表されるようなK-POPです。それらと自動車も全く一緒です。

それは、日本の良さではあるのだけれども、裏返すともものすごくせまいです。わざわざなんでこんなに作っているのだと常々思っています。一生懸命作っているのに、日本でしか売れないのは、とてもったいないです。

結果、海外のモーターショーに行くとても疲れます。なぜなら、見るたびに韓国と中国の素晴らしい車がたくさんあります。中国には、90のローカルブランドがあります。日本だと7つぐらいです。その90のブランドが毎年たくさんの種類の車を出してきます。ものすごく圧倒されます。

・これからの車

Autonomous drive / Connectivity / Electrification / Sharingの4つ、すべてのメーカーが目指しています。EV化は、個人的な感覚ですと、よく環境対応といわれますが、政治的な意味合いが強いです。間違いなくEV化はますます進みます。EVは誰でも作れるとよく言われるが、いいEV車を作るのは、いいガソリン車を作るよりはるかに難しいです。日産・ルノーの次に来るのは、テスラです。非常にユニークな車ですが、いまだ赤字です。大型トラックやスポーツカーの計画など、時価総額を維持するため、投資家か

らお金を引き出すため、次から次へと新しいことをしている。地に足の着いたメーカーはまだいません。

その他のEVスタートアップは(テスラから独立した人がやっているが)、中国の資本で、アメリカでやっていますが、すべて頓挫しています。中国資本は、短期的なリターンがないとすぐに資金を引き揚げてしまう。そのため、動けなくなっている。また、クロアチアのEVモーターを作っている会社が、1億円・2億円の車を作っています。こういったことが、世の中どんどん起こってきています。

・Connected

EVも自動運転もインターネットにつながって初めて何倍にもなります。今人が持っている持ち物で、唯一女子高生から大富豪まで持っている同じものがあります。それがスマートフォンです。車のメーカーも、ハードウェアを作っているところより、ソフトウェア・システム作っているところにイニシアティブがあり、お金が持っていかれてしまうことを心配しています。インターネットが移動の意味も含め世界を変えてしまいました。結局、車というのはEVが無くても、基本的な意味は変わりません。自動運転も同じです。そこにインターネットが入ってきて初めて、変わります。

・経営とデザイン

経営とデザインの距離を縮めるということがすごく大事です。モノづくりの会社だけではなく、サービスの会社もです。経営者がデザインマインド、デザインを理解する。クリエイティビティとデザインを理解する。社長がデザインを決めるというのは、社長の好みで決めるのではない。ゴーン氏は、おどろくほどクリエイティブリテラシーが高い方でした。私の言っていることがほとんどわかりました。デザインの言葉が通じるのです。これからはどんな企業であってもデザインを大切にしないと、お客様に対して価値を生み出せない。

・デザインとは

デザインというのは、ユーザーのエクスペリエンス・体験をデザインする。過ごす時間をデザインする。もちろん最後はビジュアル勝負をします。デザインというのはワクワクする。ドライでコモディティのものであってもしょうがないです。

・最後に

デザインのトップを出来るだけ経営に近いところに置く。デザイナーが経営の事もしっかり勉強する。経営者もデザインを勉強する。そういう会社が成功します。

中村史郎氏 略歴
1950年 大阪府生まれ
1974年 武蔵野美術大学卒業後、いすゞ自動車入社
1981年 米国Art Center College of Designを首席で卒業、その後GMデザイン勤務、いすゞ欧州スタジオデザインマネージャー、アメリカいすゞ商品企画副社長をへて、1998年デザインセンター部長に就任
1999年 日産自動車に入社
2000年 デザイン本部長に就任
2001年 常務執行役員
2014年 チーフクリエイティブオフィサー専務執行役員
2017年 日産自動車役員を退任
SHIRO NAKAMURA DESIGN ASSOCIATESを設立、代表取締役任に就任

朝食勉強会

TOKYO2020の先を見据えた将来都市ビジョン

日時:2018年3月5日 会場:シャングリ・ラ・ホテル 講師:梅澤高明氏

A. T. カーニーという経営コンサルティング会社の会長をしておりまして、企業の経営戦略立案等を行っているのが本業です。だいたい副業が増えてきて、そのうちの1つがNEXTOKYOです。ここ2年程、私の副業で1番重要なテーマとなっています。

一言で言うと東京の将来ビジョンを勝手に構想して色々な方々、国、東京都も、開発しているデベロッパーさん、2020年に向けた動きをしている会社さんに提案して回っています。

12人の民間人によるチームです。建築家が2人、東京藝術大学 藤村龍至さん、米ハーバード大学大学院 森 俊子さん、元陸上競技選手 為末 大さん、私と一緒に代表をつとめているカフェ・カンパニー 楠本修二郎さん、リオのオリパラの引継ぎ式でプロジェクトマッピングのビジュアルを担当されたライゾマティクス 斎藤精一さん、秋葉原にあるモノづくりラボDMM.makeAKIBAの立ち上げをした方で大企業とスタートアップを繋ぐのにいい仕事をされている ABBA Lab 小笠原 治さん、デザイナーのTakram 田川欣哉さん、アーティストの東京大学准教授 スプツニ子! さん、ロフトワーク 林 千晶さん、タイムアウト東京 伏谷博之さん、弁護士 斎藤貴弘さん、梅澤高明というメンバーです。一人ひとり仕事をしてる方たちが集まって、それぞれの分野のイノベーションアイデアを持ち寄って東京の街づくりを考えています。

問題意識

- このようなチームを作るに至った問題意識があります。
- 都内各所で進む大型の再開発プロジェクト。しかし人口のピークアウトをまもなく迎える東京にオフィス・住宅の新規需要がそんなに大量にあるのか?
- そもそも成熟都市・東京の街づくりは、ハコ(建物)ありきではなく、中身(産業、文化、ライフスタイル)をどう作るか、から組み立てるべきでは?
- 再開発プロジェクトの多くが、似たようなコンセプトと構成。それぞれの街が、互いに差別化された「オンリーワンの街」を目指すべきでは?

ビジョン設計の基本思想

- ・ **スコープ**
都市インフラが街づくりにおいて重要ですが、我々はそれに加えてライフスタイル・文化であったり、街の中にどういう産業を作っていくのか、それらを作る際にハードルがあるのであれば法規制など社会システムをもどのように変えていくのか、といったことを重視しています。
- ・ **アプローチ**
今までは行政が中心になって地図を広げて線引きをし、トップダウンで都市計画が行われてきました。それと同じくらい大事なのは街の中で起こっているボトムアップの創造的な活動をどれだけ活性化するかということだと思っています。また、新しい建物をどこにどうするのかだけではなく、今ある既存の建物をどう活かしてその価値を上げていくのかという発想が大事になっていくと考えています。
- ・ **ターゲット**
街というのは20年30年かけて成長して、50年以上のライフがあるものです。将来どういう人が住むのか、住んでほしいのか、どういう産業に根差してほしいのかという未来の視点が大事であると思います。特に行政に顕著なのが今住んでいる人たちの意見ばかり聞いていて未来にどのような人たちに住んでもらうべきなのかといった視点が欠けているように感じられます。

東京は世界の中でどのような位置づけでどのようにみられているか

世界の都市総合力ランキング(森記念財団) 3位
経済規模が大きい、メーカーが多くて研究開発の投資も多い、文化も集積している。それ以外は若干弱い。
Monocle(イギリスのライフスタイル系雑誌) 1位
ハイテクの効率性と伝統的な近所感覚のバランス。低層で緑が多く歩行者にやさしい。
「都市イメージ調査」東京編(森記念財団)
1. 混雑した 2. テクノロジー 3. 現代的な
4. 日本 5. 忙しい 6. 高価な 7. 文化
8. 清潔な 9. 寿司 10. 食
着目したのはテクノロジーとモダン、文化と食です。

NEXTOKYO3つのキーワード

[Creative City]

原宿：kawaiiディレクターズの組成

世界中のkawaiiファッションに興味のある人が押し寄せている。彼らをサポートするファッションコンシェルジュを作ってはどうか。

渋谷円山町：ホテル街のリノベーション

建て替えは基本許されていないため多用途に建て替えられるケースが多い。しかしながらラブホテルが海外の人たちには普段見かけない面白いコンテンツとして受け入れられている。また、観光資源として活かすために若手クリエイターたちを集めて、それぞれの部屋を彼らの作品としてリノベーションするなどしてはどうか。

渋谷：ナイトカルチャー特区

相当数のナイトクラブがあるので、ナイトカルチャー特区として発展させていくことは出来ないか。

秋葉原：フィクションシティ

世界中のオタク文化の愛好家たちが多数訪れているが、ワクワクして訪れる彼らのイメージから比べると弱い。彼らの期待値を超えるような街にしなければいけない。AR・VR企業を集めて、さらに街全体をAR・VRを活用してゲームフィールドに出来ないか。

池袋：女性の夢が実現する街

池袋は乙女ロード(サンシャイン西側)などがあり、すでに腐女子(女子オタク)の街。女性のオタクの夢がかなうのが今の池袋ですが、すべての女性の夢がかなう街にしても良いのではないか。女性向けのシェアハウス、女性向けのスタートアップ拠点、女性向けのアトリエ、などを作っていく子育ても1番しやすい街。夢を実現したい女性が集まる街にしてはどうでしょう。

築地：築地市場跡地の再開発

大事にしたいと思ったレガシーが2つあります。魚食文化の中心地としての歴史とブランド、弧状になっている赤い屋根の建物です。提案として赤い屋根の建物を居抜きで魚食などのフードホールにする。弧状の内側は大きなスペースがあるので、そこをサッカー・ラグビースタジアムにする。ターゲットとしては近隣の人たちが、観光客もターゲット。海側ではない2面に富裕層向けホテルを作り、そのテラスからも見れるようにする。そうすることで築地、中央区にお金を落としてもらう仕組みを作りたい。

■ クリエイティブ教育・研究の国際ハブ

クリエイティブシティを作るためには、世界中のクリエイティブクラスを集めたいと思うので、世界で一流の大学、研究機関を東京に作る必要があると思っています。食については世界でも最も高いポテンシャルを持っているので、世界により効果的に発信をし、才能のある人が東京に集まってビジネスをする、そんな環境を作りたい。

デザインについては1つ達成できました。RCA(ロイヤルカレッジ オブ アート、世界で唯一の大学院がある)が東大の生産研究所と手を組んで東京デザインラボというのを1年前に設立しています。現在多国籍のメンバーが生産研究所の中で、RCAの出島として活動しています。デザイン×イノベーションの拠点となっています。

[Tech City]

■ 新産業・新サービス ～東京をIoTの実験場に

2020に向けて訪れる人たちにどれだけ街のテクノロジーを見せられる絶好の機会。東京に来る外国人たちが世界一巨大かつ複雑なグローバル都市東京でストレスなく移動できるようなナビを早急に作る必要があります。東京都も認識していて、検討が行われています。

・ パーソナルヘルス

パーソナルヘルスでは高齢化する中でスマホとデバイスを連携したデジタルヘルスのサービスが急増しています。下肢のサポートをする医療用ロボットスーツが国内、EUで承認済みでドイツで事業開始をしています。為末氏が関わっている2020までに短距離走でオリンピックの記録を超える競技用義足の開発中です。

・ スポーツ・エンターテインメント

スポーツの楽しみ方も進化させたい。サッカーを例にしてみると、スタジアム中にいろんな角度からのカメラがあり、観客がスマホやタブレットで色々な角度からセカンドスクリーンとして観戦でき、ゴールシーンなどリプレイも見れるシステム。

・ 進化的モビリティ

キーワードはシェアリングと自動化。現在ドコモが7区にまた



がって利用できるシェアサイクルを作ったが、これを東京中に広げ乗り捨てが出来るシステムを作りたい。同じようにカーシェアも行ないたいが、乗り捨てするには駐車場がどのくらい必要であるといったハードルが高くなっている。ヨーロッパではメルセデスの子会社などが道路上の駐車スペースなどに乗り捨て可能なサービスを行っている。2020に向けてもう少しやりやすい仕組みは出来ないか進めていきたい。無人走行車・自動運転については現実的に2020に間に合うのはコミュニティバスなど決められた地域を走行する車両に限られるのではないかと考えています。

・ インテリジェントセキュリティ

お客様の数が増え、VIPも増え、テロのリスクも増えています。人員を増やして対応するのではなく、ネットワークカメラをパブリックスペースに張り巡らし、顔認証システムで要注意人物をリアルタイムで特定をして警察などが対応する。こういった仕組みを日本中に張り巡らせていくことが必要だと考えます。こういった時に警官が向かうのもいいですが、ドローンやセキュリティロボットが対応するのはどうでしょうか。海外から日本はファンタジーの国だと思われるので、セキュリティロボットが街中にいても違和感ないのではないのでしょうか。

・ 次世代型マーケティング

色々なマーケティング手法が進化しています。ベルギーのビール会社が行った事例としてデジタルサイネージを利用したものがあります。デジタルサイネージも使い方の腕次第のところがあるので、検討しています。また、街中のマーケティングというとイングリッシュ、ポケモンGOなどであれだけの人たちが街中に出かけています。さらに東京を訪れた人たちが街中に出て歩くための仕掛けを考えていかなければならないと考えています。

■ イノベーション地区創造の構想

Cambridge Innovation Center (CIC) Tokyo設立
Tech Cityを推進するためのプロジェクトとして進めています。0から立ち上げるのは厳しいので、CICというボストンにあるアメリカ最高峰のスタートアップの集積拠点を運営している企業の東京拠点をを作るプロジェクトです。色々なエッジがかかり、会社が集まり、お金が集まり、法規制が出来て、産業が出来るので、いろいろな人たちが集まってプロジェクトを進めて行けるような拠点づくりを進めています。

[Fitness City]

・ 健康的なライフスタイルを実現する都市

東京に住むすべての人が健康にライフスタイルを謳歌できる街。

・ 水辺・緑の有効活用

ニューヨークであればハドソン川・イーストリバー沿い、シンガポールであればマリナベイ、ロンドンであればテムズ川沿いという様な水辺の憩いの場を東京にいくつか作り観光地としても人を集められないか。東京湾内にランニング、サイクリングコースを作れないか。

ヨットハーバー+富裕層向けの複合施設(レジデンス、ホテル、商業施設、多言語サービス)

洋上バス定期路線を開通・増強(羽田と竹芝・築地、台場、日本橋などを結ぶ)リムジンボートの路線拡充
海の上でエンターテインメントを出来ないでしょうか。海外での事例としてクロアチアのパグ島、イスタンブールのSuada Club(洋上リゾート)があります。

規制改革の実現

これらのアイデアを実現しようとするといろんなハードルの規制があったりします。我々がアイデアを行政やデベロッパーに提案すると同時に規制緩和の提案を内閣府の改革推進室と国家戦略特区の諮問会議に提案を重ねてきています。

実現したものは2件あります。ひとつは、クリエイティブ産業の就労ビザ緩和「クールジャパン・インバウンド外国専門人材の就労ビザ発給要件を緩和(国家戦略特別区域法の改正、2017/9施行)」シェフ、デザイナーなどのビザ緩和を特区で実現したもの。もうひとつは、夜間経済の創造「ダンス規制の撤廃(風営法の改正、2016/6施行)」

関連する支援団体の設立

外国人雇用協議会、フード&エンターテインメント協会(FFE)ナイトタイムエコノミー推進議員連盟。こういった活動をしています。どうもありがとうございました。

— 今田 雄一 H4立高—

立教大学の今

母校立教大学の今をお伝えする企画。

スポーツ編と題して、今回は昨年六大学野球で18年ぶりの優勝を飾り、全日本大学選手権で優勝をした野球部の溝口監督に寄稿いただきました。



昨年の東京六大学春季リーグ戦優勝、全日本大学野球選手権優勝の際は多くの応援、お祝いの言葉をいただき誠にありがとうございました。立教学院の学生、保護者、教職員、OBOG等多くの関係者が神宮球場、野球を通じて一つになれたような気がし、たいへん嬉しく感じました。

現在の野球部

部員は約185名。入学形態は以下4形態。

- | | |
|-----------------------|------|
| ・ 指定校推薦 | 約70名 |
| ・ 内部進学(立教新座高校、立教池袋高校) | 約40名 |
| ・ アスリート選抜入試 | 約20名 |
| ・ 一般入試 | 約45名 |
| ・ 自由選抜入試 | 約10名 |

様々な経路から入学した多様多数の部員が原則全寮体制、1軍～4軍制で野球部生活を送っています。

なお、昨年の全日本大学野球選手権決勝戦のスターティングメンバー(指名打者を含む10名)の内訳は

- | | |
|-----------|----------|
| ・ 指定校推薦 | 4名 |
| ・ アスリート選抜 | 3名 |
| ・ 一般入試 | 2名(共に1浪) |
| ・ 自由選抜 | 1名 |

となっており高校時代に甲子園等で高戦績を持つ者だけが活躍している訳ではないことは弊部の特徴と言えます。

優勝の要因

優勝の一番の要因は何かと聞かれれば迷わず出てくる答えがあります。それは「一体感、チームワーク」です。監督就任から3年間で3度優勝まであと一歩というシーズンがありました。4年目の昨年は何としても18年開かなかった優勝という扉を開けようと過去3度の逸勝を振り返りました。一番印象に残っていたのはその前年のチームのことで。

そのチームは4年生のレギュラーのうち3名がドラフト指名を受けプロ野球に進みました。その他にも2名はプロに行っても不思議でなかったのでレギュラー中5人がプロ野球選手候補レベルでした。それでも優勝には手が届きませんでした。このチームのカラーは簡単に言えば高い個人能力を最大限発揮し実力、能力の足し算で勝つというものでした。個々の選手の調子が良く、かみ合えば他チームを圧倒するような戦いができるチームでした。しかしそうはいかないのが野球。ましてや優勝がかかってくるリーグ戦後半の対戦では相手も必死、死に物狂いで勝ちを取りに来ます。当然うまくいかないことが多くなり、持っている実力を全部出すことは不可能となります。そうすると実にもろいチームでした。苦しい戦いの中でチーム全体で一点を取りに行く、一点を守りきるような戦いができず優勝を逃しました。

どうしたらあと一歩の壁を超えられるか? その答えが「一体感、チーム力で勝つ」でした。野球はうまくいかない事が当たり前、実力通りの力が出なくて当たり前、失敗の多い競技という前提に立ち選手個人の能力に頼らずチーム全体で相手を上回るという事です。

前の打者が凡退したら次の打者が何としても出塁する、エラーが出たら次のプレーでチームとしてカバーする、打てなければ失点を防ぐ、投手が打たれれば打線が奮起してカバーする、簡単に打てそうでなければ粘って相手投手に球数を多く投げさせる、前の投手が打たれれば次の投手がカバーする、不調やミスで交代した選手は味方を鼓舞しベンチワークで貢献する。こういう戦い方ができるチームで苦しい試合、厳しい試合をギリギリでもいいので勝ち切ることを目指しました。

チーム力をつけるためにやったこと

チーム力をつけるために私が留意したことは実は単純なことでした。チームのルール、方針、チームが大事にしていることから外れた選手の考え、行動に遭遇したときにそれを許さないということでした。

チームにはルールがいくつもありますが私が重要視しているルールがいくつかあります。

- ・ 練習前の各自のウォーミングアップをしっかりとやること
 - ・ 何事も100%でやること(全力走と言ったら全力走、30メートルダッシュと言ったら30メートル走りきる、ほんのちよつとでも楽や手抜きをしない)
 - ・ 靴、スリッパ等を脱ぐ時は揃える(いつでも、どこでも)
 - ・ 自転車置き場の整頓
- などです。レギュラーであろうと4軍であろうと一年生であろうと四年生であろうと共通のルールです。

ある一人が自分一人くらいいいだろうという考えで各自ウォーミングアップを適当にしたり、全力走を手抜きしているとやがてそれはチーム全体に広がりチームとしての各自アップのレベルや全力走のレベルを下げることに繋がります。

ある一人の靴、サンダルの乱れや自転車の置き方の乱れを放置しておくやがてそれがチーム全体に広がります。ですからそういうことに遭遇した際、選手には「その行動はチーム力を下げる行動だ。お前がこのチームのチーム力を低下させている」と厳しく接しました。実力や実績がある者でもチームワークに悪影響を及ぼすと判断した場合は練習から外したり、1軍から外したりということも結構ありました。

また、チームワークを損ねる他人の行動に気付いているのに指摘しなかったり、他人の乱れた靴や自転車をそのままにしている周りの者にも厳しく接しました。

「自分はちゃんとやっているから良いではない。チームとしていつでもどこでもその状態を作り出せないといけない。誰かが靴を脱ぎっぱなしにしていたら気付いた者が直す。他人の失敗をカバーしてチームとして機能しているとはそういうことだ」と。(ちなみに私が選手に伝えることは野球技術が2割、残りの8割はチームワークの考え方、物事の考え方、しつけ的なことです。)

ほぼ毎日このようなことに向き合い、妥協せずやっていくことでチームにはFOR THE TEAMの精神が増していきました。選手間にもチームワークを乱す身勝手な言動や出来事を許さない風土が出来上がって行きました。そしてそれが野球のプレー上のチームプレー、チームワークに結びつきチーム力で戦えるチームに生まれ変わって行きました。チームスローガンは四年生の総意で「戮力同心(りくりよくどうしん)」=みんなの力を合わせて心をつ一つにすることに当たるという意= という言葉に決まり、グラウンドやミーティングで何度も四年生はその言葉をもとに会話をしていました。このことからチーム力を大事にするという風土がチーム内に浸透していくのを感じました。

そして春のリーグ戦、日本選手権とほぼ全試合が崖っぶちの厳しい試合でしたがそれをギリギリのところで一つひとつものにしていけました。日替わりヒーローの出現、控え選手の活躍、劣勢の後半からの数々の逆転などはまさにチーム力、チームワーク、一体感の賜物と言えるでしょう。

野球という競技におけるチームワーク、チームプレーの重要さを監督としてあらためて体感できたいへん大きな財産となりました。

監督のもつ理想と覚悟

優勝によりもう一つ私の財産になったことがあります。それは監督の描く理想以上のチームはできないということです。

私は18年ぶりの優勝を実現するためにチーム力で勝ち抜くチームを理想とし、チーム力があるとはどういう状態なのかを考え、描きそれを何としても実現するという覚悟を持って日々を送ってきました。チームプレーに反することがあると妥協せず全力でそれと向き合うのは勇氣、氣力、折れない心が必要でたいへんパワーを要することでしたが私自身の描く理想が低ければチームはそこまでのチームにしかならないでしょう。私がチームを絶対に変えるという覚悟を持ってことに当たらなければチームが変わることはないでしょう。監督が掲げた理想と覚悟が選手に伝わり、微調整をしながらやがて選手に受け入れられ、浸透するまで根気よくやり続けることが非常に大切だったのです。

これから

監督としての最初の4年の任期が終わり新たにもう4年任せていただくことになりました。しっかりと理想を掲げ、覚悟を持ってつとめさせていただこうと思います。

優勝できない立教からの脱却

この4年間8シーズンの東京六大学リーグでの順位は、優勝1回、2位1回、3位1回、4位4回、5位1回でした。近年優勝争いをする頻度が上がり、昨春に優勝したとはいえ5位が定位置と言われ続けた状態からまだ順位が一つ上がった程度の状態と見えています。この状態から抜け出したいと思えます。優勝争いするのが当たり前、優勝頻度が高い野球部を作るのが理想です。そのためにはまず今年のチームの戦い方が重要です。何としても今年も優勝をと思っています。

そしてもう一つ、監督就任時から持ち続けている理想があります。それは「1軍だろうと4軍だろうと関係なく立教大学野球部に4年間いてよかったと自信と誇りを持って胸を張って社会に出て行く部員を一人でも多く作りたい」です。挨拶がきちんとできる、失敗しても凹まず前を向ける、物事の筋を通す、目配り気配りができる、謝るべきところではしっかり謝れる、現状を受け入れその中でできる限りのことをやろうとする、人のせいにしらない、組織のルールを守るなど人として重要なこれらのことを身につけて部員には社会に出ていって欲しいと強く思っています。(野球が上達する上でもこれらのことは大変重要なことです。)

この2つの理想を持ち、覚悟を持って取り組み続けたいと思います。皆様に喜んでいただける、応援したいと思っていただける野球部を作って行きたいと思います。

今年も応援よろしく願いいたします。神宮球場でお待ちしております。 立教大学野球部監督 溝口智成

溝口智成氏 略歴

1967年生まれ。神奈川県出身。湘南高校を経て1987年に立教大学野球部に入部。現役時代は主将を務め、二度のベストナインを獲得。1991年、経済学部経営学科卒業。卒業後は野球部立ち上げメンバーとしてリクルートに入社。2014年、リクルートを退社し立教大学野球部監督に就任。2017年春、チームを59年ぶりの日本一に導いた。



—品川 高穂 H8済—

第72回立教経済人クラブゴルフ会



2017年12月2日(土)に「立教経済人クラブゴルフ会」が開催されました。今回は神奈川県藤沢市にあります、芙蓉カントリー倶楽部です。辻堂駅から車で8分とアクセス抜群のゴルフ場です。

天気にも恵まれ、12月としては最高のゴルフ日和です。コースコンディションもよく、グリーンがとにかく難しかったです。曲がりそうでまっすぐ、思ったより全然早い等々かなり手強いグリーンでした。ティーグラウンドでは狙い目が飛距離によって全然違うので、キャディさんアドバイスが欠かせません。あるホールでは林越えをドライバーではなく5番アイアンで打ちました。全体に戦略的でたいへん面白いコース

でした。さてこのコースを制しましたのは53,45でまわりました玉木昭宏さんでした。ハンディのおかげと謙遜されていましたが、前回準優勝でハンディが減ったにもかかわらずの素晴らしい優勝です 戸井田会長より優勝トロフィーが授与されました

準優勝は39,47でまわりました木本和伸さんでした。戸井田会長より準優勝トロフィー が授与されました。実は豊田毅さんも86と同じグロスでまわられました。しかもハンディも同じでした そこでローカルルールとしての卒年順という事で3位にさせていただきました。次回、頑張って(^_^)v

—長倉 一裕 S59法—

ウィリアムズ主教が召し上がった日本茶を訪ねて

第6回：ついに辿り着きました！



ウィリアムズ主教がどのようなお食事を召し上がっていたのかを探るべく、ウィリアムズ主教についてきっと日本で一番よくご存じの方を訪ねました。立教学院史資料センター 150年史主席編集員の大江満さんです。大江さんは「宣教師ウィリアムズの伝道と生涯—幕末・明治米国聖公会の軌跡」という本を2000年に上梓されています。

ウィリアムズ主教の墓碑には「道を伝えて己を伝えず」と刻まれています。自分の書簡や説教など全て焼却するよう遺書に記されたほど自分の名が頭われることを避けたウィリアムズ主教の

生き方を形容した言葉です。「本当はいけないのですが書いてしまいました」とはにかむように大江さんは笑っておられましたが、遺してくださなければ、ウィリアムズ主教の生き方を通しての学びも、今回の発見も、得られませんでした。

立教学院資料センターが出している図録資料や大学の歴史の本などさまざまで見せていただきましたが、お茶について触れられた記録は見つかりませんでした。大江さんもお茶については記憶にないと仰っていて、あきらめかけた時に、まさにそれは見つかりました！大江さんの執筆された本にそれはあったのです。ウィリアムズ主教が伝道のため日本に初めていらした際にお住まいになっていた住居が長崎市内の「黄檗宗聖寿崇福寺内の後山にある広徳院」と記されていました。見た瞬間、雷に打たれたようでした。

黄檗宗とは、日本に煎茶を伝えたと言われる隠元禪師が開祖の禅宗です。隠元禪師が崇福寺にいたのはウィリアムズ主教がいらっしゃる200年前ですが、このお寺に滞在していて煎茶を召し上がっていないはずはありません！

隠元禪師が伝えたのは当時の中国(明)で流行っていた釜炒り茶です。今わたしたちが飲んでいる煎茶は1738年に確立された蒸し製のもので釜炒りとは風味が異なります。どちらも可能性はありますが、長崎産の釜炒り茶はほぼ確

実ではないのでしょうか？引き続き探っていきたいと思います。

大江さまをご紹介くださった経済人クラブの中島先輩、資料館の豊田様、ありがとうございます。



満木葉子(みつきようこ)
株式会社ねこぼんち代表取締役/一般社団法人日本茶アンバサダー協会代表理事
立教大学を卒業後、ドブ板営業から人事、PR、事業開発まで幅広く実施。力を発揮できていないヒト・モノ・コトを応援するため、2011年に株式会社ねこぼんちを設立。商品開発やプロモーション、マーケティング、協会・スクール事業の設立サポートなど実施。2015年に一般社団法人日本茶アンバサダー協会を設立。日本茶アンバサダーの募集・育成、日本茶メディア「ENJOY!日本茶」の運営、産地や企業との協働事業創出、イベントやセミナー、講演を通じて日本茶のファンづくりと産地活性化に取り組む。日本茶ヨガ主宰。松坂茶認定委員。2017年「地方創生ディレクター」上梓(共著)。
☆日本茶応援サイト「ENJOY!日本茶」
www.nihoncha.org/
☆株式会社ねこぼんちFBページ
www.facebook.com/kabushikigaisyanekopanichi/

建学の精神をたづねて

同志社大学と立教大学の不思議な符合

神保町シンクタンク

黒田裕治(78年3月 法学部卒)

黒田裕治 プロフィール
1955年7月4日 広島県尾道市生まれ
立教高等学校 立教大学を経て
近畿日本ツーリスト株式会社に勤務
2012年、独立して安曇野シンクタンク創立に加わり、
現 神保町シンクタンクを主宰



【重要文化財】 同志社 彰栄館
D.C.グリーンが設計した建物で、1884年に竣工

せごどん(西郷どん)は見ていらっしゃいますか？
視聴率は15%を前後しておりますが、幕末の激動期を島津藩の西郷隆盛を通じて見てみるのなかなか面白いのではと思う次第。ただし、明治維新は(本当に維新なのか政変なのかテロルなのか外圧なのか崩壊なのか革命なのか)はまだまだ検証の必要がありますね。

さて、1874年2月、我ら母校の前身はウィリアムズ主教によって築地居留地に設立されましたが、1年後の1875年11月、新島襄先生(以下敬称略)が京都寺町に官許同志社英学校を教員2人、生徒8人で開設されました。その翌年、今出川の旧薩摩藩邸跡地に校舎を移設し今に至っています。そこはなんと維新の原動力となった薩長同盟が締結された場所でありました。(薩長同盟の秘密会談は、この二本松(当所の地名)の薩摩藩邸で開始されましたがのち藩邸の先、堀川・一条戻り橋近くの小松帯刀(こまつたてわき)邸内に会談場所が移され、そこで薩長同盟が最終的に締結されました=慶応2年(1866年)1月21日=。幕末の動乱期、2人の創設者はそれぞれのアプローチは違うものの、これからの日本の将来について新しい考え方、新しい方向性、新しい手法を提案し、担っていく若い世代を育てていく教育の仕組みを世に送り出しました。その軌跡をたどりながら、2つの建学の精神をたづねてまいります。

* 同志社創設への道

幕末の1864(元治元)年、新島襄は激動する日本の将来を憂い、国禁を犯して脱国し、約10年間にわたってアメリカ、ヨーロッパで学び、キリスト教の洗礼を受けて帰国しました。人びとが奴隷扱いされ、息苦しい封建社会に束縛されることに我慢ができず、自由と人権を求めての冒険でした。留学中、キリスト教徒となった新島は、しだいにひとつの夢を膨らませました。そして、国内外の多くの人々の協力を得て、1875(明治8)年11月29日、京都の地に同志社大学の前身となる同志社英学校を設立しました。新島は、学問の探求とともにキリスト教を徳育の基本として人格を陶冶する教育機関をめざし、同志社においてキリスト教主義に基づき、自治自立の精神を涵養し、国際感覚豊かな人物を育成することを教育の理念としました。「自由」と「良心」に立つ人間を養成するキリスト教主義教育を日本でも、という夢です。同志社とは、「志を同じくする者が創る結社」です。その原点は、もちろん新島の志です。「ひとつの志」、「同じ志」、すなわち「同志」を意味します。143年前に設立された同志社英学校以来の教養教育(リベラル・アーツ)の伝統を継承しながら、同志社大学が掲げる建学の精神「良心教育」を、「キリスト教主義」「自由主義(自治自立の精神)」「国際主義」という3つの教育理念に基づき、現代において展開しています。

* 立教創設への道

1874(明治7)年、米国聖公会の宣教師チャニング・ムーア・ウィリアムズ主教によって設立された「立教学校」。東京・築地に聖書と英学を教える、わずか数人の生徒で始まったこの小さな学校が立教大学の前身です。ウィリアムズ主教は、当時の「実利主義」や知識、技術を物質的な繁栄と立身出世の道具とする日本の風潮をよそに、ここを「キリスト教に基づく真の人間教育を行う場」と位置づけました。現象にとらわれず、常にその本質に迫ろうとする自由の精神、そして、個性を重視した人間教育。これこそが立教のキリスト教に基づく精神といえます。1874年に開校し、建学以来、ヨーロッパの伝統的な教養教育であるリベラルアーツ教育に力を注いできました。リベラルアーツ教育は、真理を探求し、世界の仕組みを知るための基礎教育です。目先の利益にとらわれず、世界全体から問題をとらえる知力、予想外の出来事に直面した時に的確な判断を下す洞察力、そして人間社会の一員として未来を担う自覚、これらを兼ね備えた人間を育てることを自らの使命として現在に続いています。

* 2つの教育理念が符合していた！

ペリー来航前後の幕末期、世界は大きく激動していました。鎖国政策をしていたとはいえ、江戸幕府方も、諸国の藩政も諸外国の動向はウォッチングしておりましたが、どう対応するかについては混迷を重ねていました。新島襄は実際のアメリカ社会を目の当たりにして、少数の英雄の力で一国を維持するのではなく良心のある民が自ら治める社会の実現を目指す為に、教養、知識、キリスト教による人格形成を目指して「良心」を持つ人々を日本に育成することを目指しました。また、ウィリアムズ主教は日本の公教育が傾倒していく社会進化論、不可知論、懐疑論などの無神論的思潮への対抗の必要性を強く感じ キリスト教主義に基づく全人格教育を重視しました。「キリスト教主義、自由主義、国際主義に基づく良心教育」と「知育、体育、霊育による全人格教育」、この2つの教育理念は共に「リベラルアーツ」につながっており、奇しくも明治7年と8年に日本の関東と関西に建学の志を同じくする2つの私学が誕生しました。

* キャンパスの建築物の不思議

～2人の建築家は最初そもそもプロの建築家ではなかった?!～

同志社に最初の煉瓦造建築が実現したのは、明治17年竣工の彰栄館です。設計は同志社教員だったグリーン(Daniel Crosby Greene, 1843-1913)が行いました。グリーンは合衆国マサチューセッツ州で、アメリカン・ボード(米国外国伝道委員会)の一家に生まれ、祖父は大工であり建築家でもあったが、彼自身は直接建築を学んだわけではありません。明治2年、グ

リーンはアメリカン・ボード宣教師となり来日し、当初は神戸を中心に活動した後、明治15年に同志社へ赴任しました。彼の設計した建築は同志社彰栄館、礼拝堂、有終館の3棟です。ガーディナー(James McDonald Gardiner, 1857-1925)は合衆国セントルイス生まれの建築家で、明治13年に来日。ウィリアムズ主教が開校した立教学校の教師を務めながら学校の設備拡充にも尽力、ガーディナーはその初代校長にも就任(後の立教大学)しました。建築学の素養のあったガーディナーは1891年(明治24年)には校長職を離れ、建築家としての活動を開始、各地の教会をはじめとしてさまざまな建築を手がけています。1894年6月20日の明治東京地震で立教学校校舎などの初期作品が被害を受けました。以来、建物の耐震性も考慮した設計を行うようになりました。また、旧友の協力により論文を提出、ハーバード大学の学位を取得し卒業。帰国後、立教大学校英語・英文学教授の地位に再び就きました。

この2人が、今に続く日本の西洋煉瓦造り建築の先駆者であったことは

大学設立と同じく不思議な符合であり、2人の創設者の建学の精神を、多くの卒業生の心に伝える「装置」として長く機能したことでしょう。

* まとめ

創立150年を2024年、2025年に迎える両校は大学野球、バスケットボール、ラクロス等々ですすでに同立戦(あるいは立同戦)の交流が長く続いています。当経済人クラブでは、同志社校友会様との交流を始めました。同志社大学vision2025、RIKKYO VISION 2024の成功に向けて相互に手を携えて参ります。

「こよいはこらでよからうかい。立教ボーイ、チェスト!きばれ!」

参考

新島襄と八重 同志社大学同志社史資料センター発行
同志社大学通信 One purpose 192,191
立教大学 全カリのすべてーリベラルアーツの再構築ー東信堂
同志社大学オフィシャルサイト
立教大学オフィシャルサイト
Wikipedia



薩摩藩邸跡地石碑

新しく会員になられた方々 (敬称略)

飯塚 幸子 平成4化

(株)ラウレア

代表取締役社長

〒105-0004 港区新橋3-7-4赤レンガ通ビル4F

TEL:03-6550-9816

FAX:03-6550-9816

E-Mail:siizuka@laulea.co.jp

会計コンサルティング

清水 正幸 昭和61経

埼玉りそな銀行

所沢支店 支店長

〒359-1115 所沢市御幸町1-16

TEL:04-2922-2142

FAX:04-2925-9334

E-Mail:masayuki.a.shimizu@saitamaresona.co.jp

金融業(銀行)

中島 正敬 昭和19法

むつみ合同司法書士事務所

共同代表

〒171-0021 豊島区西池袋3丁目25番11号

パークサイドビル4階

TEL:03-3980-4555

FAX:03-3980-4556

E-Mail:m.nakajima.shoshi@gmail.com

司法書士

森重 かをり 平成3化

(株)ルピシア

代表取締役

〒150-0034 渋谷区代官山町14-23

セントラル代官山ビル6F

E-Mail:morishige@lupicia.co.jp

食品製造小売業



Facebookで、
立教経済人クラブの
グループに参加しよう!

セミナーや新製品の告知、交流の場として
ドシドシ投稿してください。

立教経済人クラブウェブサイト



立教経済人 🔍 検索

過去の行事や活動はウェブサイトでご覧頂けます。

「かわらないため・かわりつづける」

快晴の日曜日。家族三人いつもの公園でお弁当を食べる。そして娘の笑顔
を妻と楽しむ。そんなさりげない一日。私が最高に幸せを感じる時間だ。それ
を妻に話す。すると「あなたは海外に何回も行ったからよ」「私も海外行きた
いな」と必ず反論がくる。救いは4歳の娘。彼女は近くの公園が一番好き。そ
れを妻もよく知っている。

私は大学を卒業してスポーツメーカーに入社。新人ながら大市場の神奈川県
をいきなり担当。寝る間も惜しんで働いた。その結果、売上は倍々で伸び
た。自分の成長も感じた。ところが問題はその後。作り上げたものに安住し足
を止めた。私の悪い癖がここでも出てしまった。

私の失敗には2つの間違った考えがあった。それは「結果良ければすべて
よし」「努力しないで成功するのがカッコいい」というバカなもの。その結果
小さな成功に安住し、継続的努力を怠った。もちろん今は過程が大切なこと
を痛感している。考えれば人生「過程がほとんど」「結果なんか一瞬しか
ない」のだ。

人生第2の仕事について4年。法人営業そして講師として全力で走って
いる。まだ満足できる結果は出ていない。従って足を止める余裕はない。そんな
今私は思う。「日々行動あるのみ」と。もちろん目標である「書く仕事」の準備
も。そして運良く結果が出たとしても、次の新たな挑戦をする。そうすることで
成長し続ける。家族との幸せな時間を守るために。そう「かわらないために・

かわりつづける」。そして娘には身をもって伝え続けたい。人生にとって最も大
切なのは「かてい」だよと。

「記者の夢と子育ての現実」 自己紹介

こんにちは。今年59歳になる安尾です。日経読み方アドバイザーとして日本
経済新聞の活用法を伝えています。それにより若い人たちに日経を広めるこ
とが仕事です。講座では反面教師として私の失敗を多く話しています。また
ニュース記事がビジネス文のお手本だとも伝えています。

私には現在5歳になる娘がいます。その娘を育てるために後20年働くつも
りです。そのために大学時代の夢「記者になること」に再挑戦しています。書
く仕事に定年はないからです。それを考えて54歳の時に今の仕事を選びまし
た。そして昨年から文章サロンに通い始めました。舞台に上がり自らを鍛える
ためです。「かわらないため・かわりつづける」はその第1作を少し書き直した
ものです。

もう直ぐ60歳。働くために健康も欠かせません。そのために毎日スクワット50
回。月に1度パドルテニスをしています。パドルテニス日本1になること。これも私
の夢です。そしてふたつの夢を追いかけの中で、大好きな立教のため少しでも
役に立ちたい。そう強く思っています。この度はこのような機会を頂き、本当に
ありがとうございました。 S58年社会学部産業関係学科卒 安尾 圭司

編集後記

藤堂和泉守高虎。

戦国時代に主君を8人も変え、豊臣秀長(秀吉の弟)の腹心から徳川家康
の重臣として仕え、城づくりの名人ともいわれた戦国武将・大名。

これほどの武将を知るきっかけとなったのは、実は昨年10月の経済人クラ
ブの朝食勉強会でした。講師を務めてくださった建築家の前田先生からお聞
きするまで、恥ずかしながら名前すら知りませんでした。

しかし、その生き様を追ってみると、見事という他無いような凄まじさ、と
同時に戦国時代とは思えないような先進的な考え方を持っていたのです。例
えば、昨年、都民ファーストという言葉が流行りましたが、高虎公は400年以
上前に既に領民ファーストを実現していました。

城づくりも、常にヨーロッパ等の先進技術を取り入れ、幾多の城づくりを手
掛け、江戸城をはじめ今も残る名城を築いています。

この高虎公、実は私にも意外な縁がありました。戦国時代が終わり、江戸
に大名が屋敷を構える中、高虎公が江戸上屋敷として選んだ場所が東京都

千代田区神田和泉町。というより、この地名、和泉守であった高虎公に因んで
つけられたものですが、なんとその屋敷跡にあるのが私の卒業した小学校
だったのです。私は、知らないうちに高虎公の上屋敷跡で6年間を過ごしてい
たのです。

私が通っていた当時は、千代田区立佐久間小学校だったのですが、その
後の再編で今の校名は千代田区立和泉小学校。高虎公の遺訓に、「寝屋を出
ずより、その日を死番と心得るべし」という言葉があります。日々命を懸け
る覚悟を持って生きた高虎公に比べ、なんと長閑な小学校生活を送ってし
まったのだろう。高虎公の名前に因んだ小学校の校門の前で、深い反省とと
もに佇んでしまいました。

せめて、これから先は時間を無駄にすることなく、高虎公のような覚悟を
もった日々を送っていかなければ、とはるか昔に生きた名将に誓うのでした。

—吉原 伸隆 H4営—